



農山村集落の景観を持続するために

—適切な利用・管理をめざして—

神 吉 紀世子

はじめに 京都市の市街地内外の農山村集落

京都市の魅力のひとつは、都市市街地の近くに、美しい農山村集落の風景がみられることがある。盆地をとりまく丘陵部に入るとほとんどすぐに、山林、農地、民家群がセットになった美しい風景がみられる。あるいは、現在は都心から連たんしている市街地の一部となっていても、昭和期以降に市街化が進んだエリア等には、地形に沿って続く道や石積み、水路、町家とは異なるしつらえの民家群が、よく保たれている場所がみられる。

例えば写真1は、左京区の市街地内に、稼働はしていないものの現存する鉄輪の水車である。この地点の近隣の方に伺ったところでは、かつては「精米のほか肉桂等の製粉も行った」とのことであった。近辺には「線香等の原料製造の水車もあり昭和30年代頃まで稼働していた」「鉄輪が1台、他所に移転することとなり、大きな径の輪が老ノ坂トンネルを通り抜けられるかと心配したものだ……」とのエピソードも聞かれた。

昭和11年製版・昭和28年修正の3,000分の1京都市都市計画基本図には、

かんき きよこ 京都大学大学院工学研究科准教授。博士（工学）。京都大学大学院工学研究科建築学第二専攻修士課程修了後、京都大学助手、和歌山大学システム工学部環境システム学科助教授等を経て、2005年より現職。共著に三村浩史・地域共生編集委員会編著『地域共生のまちづくり－生活空間計画学の現代的展開』学芸出版社（1998年）、宗田好史・北元敏夫・神吉紀世子・あおぞら財団編著『都市に自然をとりもどす－市民参加ですすめる環境再生のまちづくり』学芸出版社（2000年）、日端康雄編著『市民参加の国土デザイン－豊かさは多様な価値観から（NIRAチャレンジ・ブックス）』日本経済評論社（2001年）など。

農山村集落の景観を持続するためにこの写真の地点の近隣500m四方ほどに、10台の水車の記載があり、周囲に水田が広がり当時は市街地とは距離をおいた農村集落であったことが確認される。既往文献¹⁾にも示されているように、京都では左京区の白川沿いの精米水車群や、明治期以降に産業用動力・機械として稼働していた水車が多数あったことが知られている。写真1の例は農村が上記のような製造業にも従事していたという、歴史都市の近郊の特徴を伝えるものでもあり、この水車が今もみられることは、単なる懐かしい点景以上の意味がある。水車が面する細い道はそこだけわずかに広くなつており祠が置かれ、集落内の共同空間であったことが現在も十分にみてとれる。閑静な住宅街の中に溶け込むように農村集落の空間性が存続している。



写真1 京都市内某所に現存する鉄輪の水車

1 土地利用と景観構成要素の二段階から農山村集落の景観を捉える

農山村景観を捉える方式には複数があるが、標準的には、まずは土地

1) 次の文献に京都の水車についての報告がある；末尾至行『日本の技術12 水車先人の技術遺産』日本産業技術史学会監修・第一法規, pp. 31-33 (1994年), 出水力『水車の技術史』思文閣出版, pp. 203～208 (1987年) 等。

利用（林地、農地、宅地、それらをつなぐ水面・水路群、等）が地形とどのように対応して配置されているか、その構成を把握することになる。さらに、各土地利用を詳細にみると、ひとつひとつの土地利用のまとまりの質をつくる景観構成要素群にみわけることができる（表1）。農地にも水田、畑、果樹園等多様なタイプがあり、水田ひとつをとっても、湿田と乾田では四季を通じて異なるエコロジカルな環境が出現し、その外観も異なる。どのような景観構成要素がセットとして存在するかによっても、異なるエコロジカルな環境が出現する。とくに農山村集落では、このような詳細な景観構成要素の配置が、農家林業家の生業・生活上の意図を反映し、意味ある利用や管理がなされてきた経過があることに特徴がある。土地利用－景観構成要素という二段階の構成を十分に理解し、その意味を読みとることが農山村の景観の保全には欠かせない。

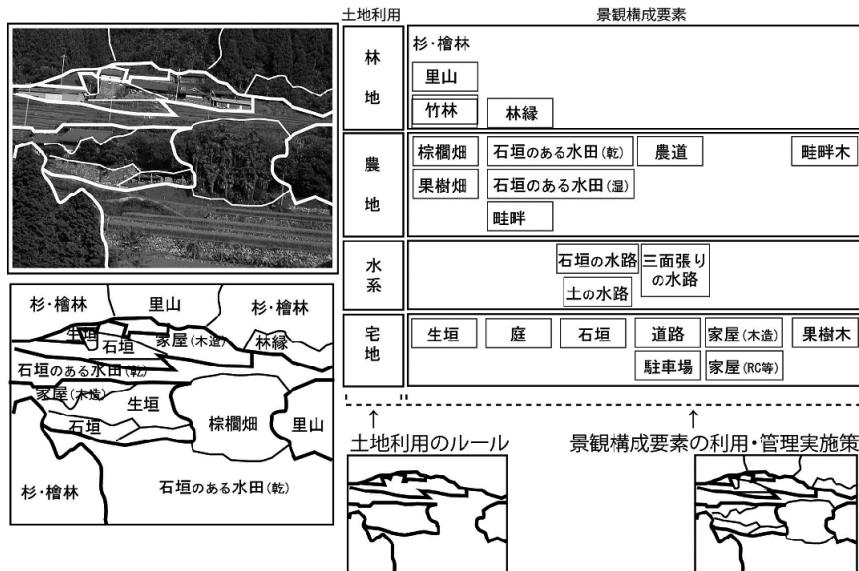


表1 農山村集落の景観を土地利用－景観構成要素から捉える

こうした構成のうえで、景観を持続しようとする取り組みを考えると、

農山村集落の景観を持続するために二段階のそれぞれにどう対応するかということになる。まずは、景観の骨組みをつくる土地利用の配置原理を無秩序に崩さない、土地利用レベルのルールが必要である。景観構成要素のレベルでは、構成要素の個々の特徴を再評価して、重要な構成要素やその配置原理を持続するための、適切な利用・管理のあり方を計画化することが望まれる。土地利用の変更はなくとも利用・管理の方式が変動すると景観を保つことができなくなる。「管理作業が十分にいきとどかない里山で動植物相が変わってしまうため、下刈り作業を適切に実施する」という取り組みは全国でみられるようになったが、こうした例は、この景観構成要素の利用・管理のひとつの例である。

2 重要文化的景観「遊子(ゆす)水荷浦(みずがうら)の段畑」にみる景観保全

景観を持続させるしくみとして、利用・管理の適切なかたちでの実施が必要となる、という実例を、2007年に、文化財保護法の重要文化的景観に選定された「遊子水荷浦の段畑」（愛媛県宇和島市）にみてみたい。宇和島市の西部、宇和海に面したリアス式海岸の半島に位置する、遊子

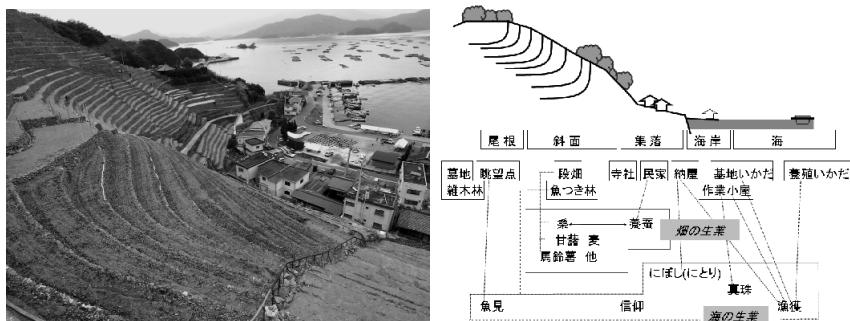


図1 遊子水荷浦の文化的景観の特徴(次頁につづく)

表一Ⅲ-10 景観の構成要素

単位		構成要素	施策
丘陵	尾根	墓地	景観計画
		眺望点	景観計画
		雑木林	
	斜面	畠	
		石垣	
		石段・みち	景観計画 (景観農振地域)
		作物	(市森林計画)
		モノレール	
		索道跡	
		魚つき林	
集落	寺社・小祠	薬師寺・西海寺・八幡神社・白王神社・小祠	景観計画
		ベンガラの民家	
	家屋群	倉庫	景観重要建築物
		石段・路地・参道	景観公共施設
		井戸・水源	景観公共施設
		水路	
		樹木	景観重要樹木
	海岸	道路	
		岩礁	
		墓地筏	
		作業小屋	景観計画
海	海面		
	竜王島		
	養殖筏		

表一Ⅲ-11 景観の保全に不可欠な管理・利用

	構成要素	管理・利用	施策
A.環境管理の知恵	段畠の維持管理	石積み	景観農振地域
		草とり	★地域指定にあわせて必ず付帯
		補修	★支援策導入
		作物	
		魚つき林	市森林計画
	海の環境の維持	生活排水の浄化	
B.生活文化	各生業の技		道具類の保存と研究 生業技術史の研究知見から環境管理の知恵を抽出
	食文化		生業史に関連のある地域らしい食文化への注目
	祭事・儀式		竜王祭等重要なまつりの祭事や、生業に関連のある年間の行事等への注目 その行われる場所・空間性への注目と保全

『宇和島の段々畠保存・活用計画書』宇和島の段々畠保存・活用委員会（事務局：宇和島市教育委員会文化課），2006年3月よりP.50から引用

図1 遊子水荷浦の文化的景観の特徴（前頁よりつづく）

農山村集落の景観を持続するために水荷浦の景観の構成を図1に示した。現在のところ第一段階として、急傾斜の段畑の部分だけが重要文化的景観に選定されているが、2004年から2006年にかけて行われた「文化的景観モデル事業」の報告書²⁾では、水荷浦地区全体についての特徴が述べられている。

昭和30年代頃までは宇和海沿岸に広くみられた極端に急傾斜の段畑は、現在もまとまった面積で変わらぬ姿がみられるのは水荷浦地区だけとなつた。水荷浦地区の全体の構成は、丘陵地から海にかけて、半農半漁の集落らしい景観構成要素の分布からなっている。漁業に関わる景観構成要素についてみると、海岸や海だけでなく、丘陵には、魚見の地点や魚つき林として保護されてきた林地があり、集落には漁具等のための倉庫が海岸よりに配されている。畑作に関わる景観構成要素をみると、集落内に現在10棟程残っている、二階を養蚕室に利用するために一階よりも二階の階高が高いベンガラ塗りの民家があり、段畑に石垣が導入されるようになったのは養蚕が盛んとなり桑を栽培するようになった頃に重なることからみて畑作と深い関係がある。資源は何でもぎりぎりまで利活用するように各種挑戦してきた複数の生業が、このように現在も地区内のそれぞれの部分に関わりをもつていると理解される。以上のような特徴を表現するために、報告書では、丘陵から海にいたる半島全体を、「土地利用」ではなく、文化庁の文化的景観記述の方式にそった)「単位」と「構成要素」として整理し、文化的景観としての特徴をまとめている。

このうち、段畑の部分が、利用・管理の実施がなければ保全することができない景観構成要素として際立つ部分である。水荷浦の段畑は小ぶりな割石で間隙を含みながらざっくりと積まれた石垣で築かれており、水はけがよく、日当たり条件に恵まれていることから、現在、早採れの馬鈴薯の産地として高い評価を得ている。馬鈴薯がこの畑にむいてい

2) 『宇和島の段々畑保存・活用計画書』宇和島の段々畑保存・活用委員会（事務局：宇和島市教育委員会文化課），2006年3月

ることが判明したのは近年のことである。かつては甘藷と麦が主たる作物であった。先祖が執念をこめて築き上げた段畑が消えてしまわないよう當農上の工夫をしてきたなかで、農業が進化した。馬鈴薯の生産がある程度の安定を実現したこともあり、この地では段畑が残ることになったという見解を述べる人もあり、景観を持続させる「利用」の開発に成功した例と言える。

実は、傾斜が極めて急で間隙を含むように積み上げられた石垣は頻繁に小さな崩れを起こす。農家は毎年のように石を補充しながら手積みで石垣を修理している。小さな崩れを頻繁に修理する必要はあるが、未だ大規模な崩れは経験したことがないという。また、間隙には容易に雑草が生えるが雑草が根を張ることは石垣を不安定にするため、農家は、数日毎に、細長い鍵手つきの道具で根から雑草をひとつひとつ除去している。急傾斜の畑では、まるで崖のようなさらに急傾斜の細い通路を、水も苗も収穫も、石垣修理のために補充する石も、人が担って運んだもの

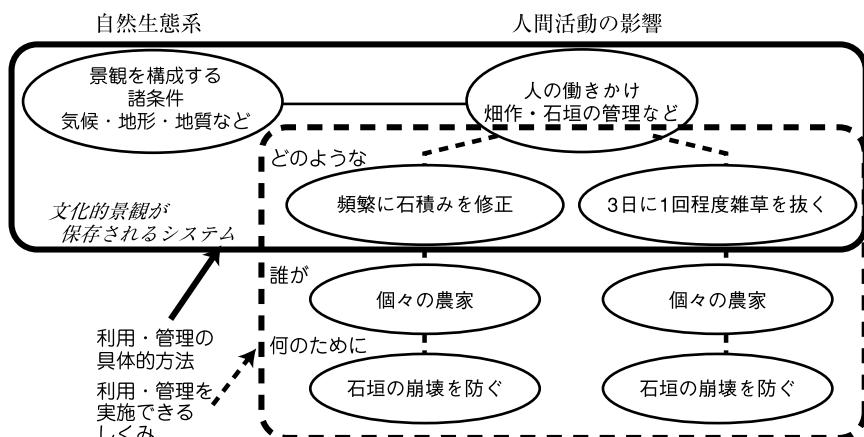


図2 景観構成要素である段畑の石垣を保全するための利用・管理

農山村集落の景観を持続するために
であった。現在は一部に軽自動車なら通ることのできる道が届き、モノ
レールも設置されているが、ひとつひとつの畑に通い作業することを人
力に頼っていることは変わりない(図2)。「利用」と並行してこうした負
担の大きい「管理」が渾身の力で維持されている。このようにして、段
畠では「利用・管理」が今までのところ持続しているのである。

図1は、モデル事業の報告から、景観構成要素の説明を記載している
部分を一部引用した図である。筆者はモデル調査の委員会に参加してい
たが、報告書をまとめる際に、図1に引用している表-III-10と表-III-11
を同一ページに載せることにこだわった。段畠の石垣のような景観構成
要素は、許可なく撤去や変形を行うことを規制するような保存計画だけ
でなく、労力負担の大きい作業を、景観構成要素の存続に必要不可欠な
利用・管理として位置づけ、今後も確かに実施し続けていく方策の必要
を同時に計画に位置づけておくべきであると主張したかったからである。

現在の水荷浦では、漁業を引退した直後の比較的高年齢の世代が、段
畠での作業を受けもっていることが多い。世代による漁業・農業の一種
の分担があるから世帯の主たる収入源ではない段畠耕作を続けられてい
るとする意見も地元では聞かれる。さらに、今では希少な存在となった
段畠を存続させようとする意志をもって地区住民有志が積極的に労力負
担の大きい利用・管理を続けている。同時に、現在の利用・管理の状況
が将来にわたって続け得るかどうか確信はもてないと不安を述べる意見
もないわけではない。

いかに利用・管理を続けていくか、水荷浦では3つの模索が現在続け
られているとみてよいだろう。まずひとつめに、「馬鈴薯生産のケース
と同様に、この特別な畑に適した作物や生産方式が見出され営農が自立
しあのづから利用・管理が続いていくことをめざす」考え方である。景
観にも適し農業としても安定する理想的とも言える状態をめざす考え方
である。しかし今のところ実験段階と言えるだろう。次に、現状に近

い形で「漁業を引退した直後の世代が世帯にとっては副収入的な位置づけにおいて畑作を継続していくことをめざす」ものである。さらに、国民全体の景観資産となった段畑を守るにはより広い社会で協力すべきだという考え方から「地区内外の新しい担い手との労力・費用における協力体制のもとに続ける」ということも考え方がある。行政施策としての何らかの補助金を活用することはこうした考え方のひとつと言えよう。また、石垣の場合のように技術を必要とする利用・管理においては、素人に実動を期待することはできないので、技術を習得した人材を育てることで近い将来にむけて協力体制の充実に備えようというアイデアもあり得る。現在のところ、どれがどの程度有望な考え方という判断は難しく、高齢者の元気に依拠しながら、複数の試みが続いている。

3 利用・管理の実施支援策の見通し

景観法の制定、文化財保護法における文化的景観の導入と同時に、農業農村整備関連の事業・制度における「景観配慮型」の新しい施策群が設けられはじめている³⁾。まだその適用実例は少ないが、上述のような利用・管理の実施支援を、適切に続けていくことができるよう、新しい施策群を用いることができないか検討の余地はあるだろう。

制度の充実に期待する一方、有志が協力して景観の持続に必要な利用・管理に参画する民間の取り組みの拡がりも大きい。例えば、林野庁の「平成18年度森林・林業白書」によると、国内の森林ボランティア団体数は1,863団体という報告がある。里山の環境低下が頻繁に指摘されるよう

3) 例えば、農林水産省農村振興局企画部事業計画課監修・(社)農村環境整備センター監修協力『農業農村整備事業における景観配慮の手引き』(社)農業土木学会(2007年)。景観農業振興地域計画等に定められた区域でのNPO等による景観保全活動等への活動支援事業の導入も図られているとのことである(2007年2月)。

農山村集落の景観を持続するために
になった1980年代頃にボランティア活動としての里山管理等が取り組ま
れるようになつたが、当時に比べると、活動に従事する人の数は大幅に
増えたことになる。現在では、団体間の交流ネットワークや技術研修の
機会も充実し、1980年代に比べればはるかに頼もしい人材の層が生まれ
ている。

どのような支援策がどの場所に適しているか、人材間の相互理解や協
力分担の関係を調整しながら、適切に判断し、利用・管理の実施の可能
性を、景観保全のための計画の一部として含めることが実効力のある取
り組みとして期待される。

4 京北地域の景観

2005年に合併し、京都市右京区京北となった旧京北町（以下、京北地
域と呼称する）は、面積200km²余にわたって美しい農山村集落の景観が
維持されてきた地域である（写真2）。



写真2 京北地域の農山村集落 雄大な山容を背景にして農地と集落の配置関係が
よくわかる景観である。管理低下への危機意識が聞かれるものの、全体には利用・
管理はよく行き届いている。

2005年～2007年にわたって、京都市では「京北地域の土地利用の規制・誘導のあり方に関する検討会」が設置され、その検討作業の成果として「京北地域の土地利用ルールのあり方 取りまとめ」⁴⁾が公表されている。その6頁には「京北地域の現状と動向」として、住民アンケート調査や団体ヒアリング、検討会の結果が簡潔にまとめられているが、そこでは、「魅力」として「豊かな自然環境と貴重な自然資源」「地域に根付く伝統・文化」「自然を背景とした景観」「地域づくりや人づくりの歴史」、「問題点」として「農地の耕作放棄や荒廃」「林地における盛土の増加」「問題のある住宅、別荘等の建築」「中心部の土地利用変化」とされている。「問題点」のうちの「農地の耕作放棄や荒廃」は、利用・管理の実施にかかる問題である。また、「中心部の土地利用」は新規開発だけではなく、空き店舗の出現等も含まれており、開発規制だけでなく、利用・管理の実施の問題も含んでいる。

京北のNPO法人ふるさと京北鉢杉塾によって近頃出版された、『ふるさと再発見』、『ふるさと京北再発見 第二集』⁵⁾、のうち、先に出版された前者に、上記の「魅力」としてあげられている「豊かな自然環境と貴重な自然資源」にあたる記述が記載されている。その記述には、自然環境としての特徴に加えて生業や生活との関わりが説明されており、従来の利用・管理のあり方を伝えている。これら利用・管理を将来にむけて再構成する必要のあるものについて検討を続けることが、ここでの農山村景観保全の営みの重要な一部になる。第二集には茅葺き民家がトタン等で覆われているものも含めると446棟現存すると報告されている。茅葺き民家1棟が1世帯によって維持されているとは限らないが、およその目安として世帯数と比較してみると（2005年3月1日現在で2,346世

4) <http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000004/4027/k-torimatome.pdf>

5) NPO法人ふるさと京北鉢杉塾『ふるさと再発見』（2004年）、『ふるさと京北再発見 第二集』（2007年）

農山村集落の景観を持続するために

帶), およそ5世帯に1棟の割合である。京北の農山村集落の民家は, 庭やそれを囲む板壁, 数棟の付属屋や門などが集合してひとつの屋敷地を構成している場合が多く, 茅葺きの屋根が点在するように見える。そのため, これだけの棟数が現存していることは一見ではわかりにくいため, 改めてこの現存数は印象的である。446棟もの歴史的民家を, 現代生活のなかでそれぞれに利用・管理されてきた経過は, 当地における景観の利用・管理の力のあらわれとして, 学び再評価されるべきものである。

現在, 京北地域は, 京都市の景観計画上は白地となっており, 今後, 景観を保全するための諸活動が展開されていくと予想されるが, その際に, 利用・管理の不足している部分へどのような新たな実施策を対応させ得るか, また, 利用・管理がうまく持続してきた部分への再評価と今後への展開の可能性について, 注目していきたい。

さいごに

冒頭に紹介した水車のような場合についても, もし稼働する状態で保全しようとすれば, 通水するための水利システムの管理や, 時折必要になる水輪の修理等を, 誰かが実施する必要がある。

従来からの利用・管理を再評価し新しく再構成したかたちで持続させることで持続できる対象は地域に少なからず存在している。「低下している力を復活させる, あるいは, 新しい力におきかえる」という課題は, 「秩序を越えて増えようとする力を抑制し制御する」という課題とは, また異なった難しさをもっているが, そこに, 農山村集落の景観を持続していくための新ステージがある。